受験生の心

三年 和島 晃（昭和五九年度）

受験勉強をしていると、あせりとどうにもならないようなストレスを感じます。

何にでもいいから当り散らして、思いきり発散したい気分になるのです。今まで、勉強しなかったのに、急にやりだし、何でもかんでも頭に詰め込もうとするので、正常な判断ができなくなっているからでしょうか。

そういえば、先輩達も今頃の時期は、顔を合わせるたびに私達にハツ当りしていました。休み時間には、インディアンゲームをして、思い切り私達めがけてボールをぶつけてきたのです。

でも、そんな時でも私達は、決していじめられているのだとは思いませんでしたし、逆に、先輩達は今、受験勉強で大変なんだなあと思いつながら、ボールをあてられていました。先輩達のストレスがそれで解消されるのなら。これぐらいがまししようと思いつながら、私達は私達なりに協力したり応援していたつもりです。だから合格発表の当日は、一緒に卓球をしながら、先輩達が一人一人呼びだされて行く後ろ姿を見ながらドキドキしていました。

そして合格の喜びを全身で表しながら戻って来た時は、ま

るで自分か合格したように胸が熱くなったものです。

しかし、今の一年生や二年生を見ると、私達が一生懸命受験勉強しているのにもかかわらず、全く私達の事を考えてくれないようです。

確かに私達は今までの先輩達のように立派ではないかもしれませんが、それでも後輩は後輩として、もつと協力してくれてもいいと思います。

後輩は後輩らしくしろと思う事は、受験勉強をやりだした最近になって感じたことではありません。私達が三年生になった四月頃から、いつも感じてきたことなのです。これは決して私達三年生がだらしないからとか、先輩としての権威がないからとかということだけではないと思います。後輩の先輩に対する礼儀とか挨拶とかもとても生意気です。私達が今の後輩のような態度をとったとしたら、先輩にきつくしかられたものでした。そして、私達はそれを素直に訂正したので、ところが今の後輩は、すぐにくさい顔をしたり、無視したりして何を言ってもききません。それに、少し厳しい態度をとると、親や先生につげ口して逃げようとしています。そこで私達三年生は、それ以来あまり口だしはしないようになりました。先生や親がでてきては、いくら私達が正しいことをしているでも悪く見られてしまうからです。どうせ、今の一年生や二年生が三年生になった時に、私達の気持を味わうはずですから。

けれども、学校生活では、やはり、先輩と後輩の関係ははつきりしておくことが必要だと思います。先輩は後輩に良くなってもらいたいと思いつながら、いろいろアドバイスするのだから、それをいつも無視しては、今までの伝統を受け継いでいくことなどできないと思います。そういう点で、今年の運動会の陣地作りでも、手伝おうとした一、二年生が少なくて、来年のことがとても心配です。私たちが今必死でやっている受験勉強と同じように、後悔先に立たずにならないければ良いと思うのですが。

最後に、このような状態は私達に指導力が不足していたり、先輩としても足りないところがあるからと認めますが、後輩の耳に入る情報もかなり影響して作られたもののように思えます。今の三年生はだらしないという内容の話が。先生方から聞かされれば、ついそのように考えてしまうのも当然だと思ふのです。

このような状態では、うだつのあがらない三年生は、来年からもずっと続いていくと思ひます。どこで何が狂ってしまったのかわかりませんが。

しかし、よく考えて見るとこのような文章を書くことでストレスを解消できるとは。そしてこのような文章をかかせてしまうほど、高校入試というものはすごいものだとは知りませんでした。さて、気分が晴れたところでまた受験勉強をがんばろうかな。